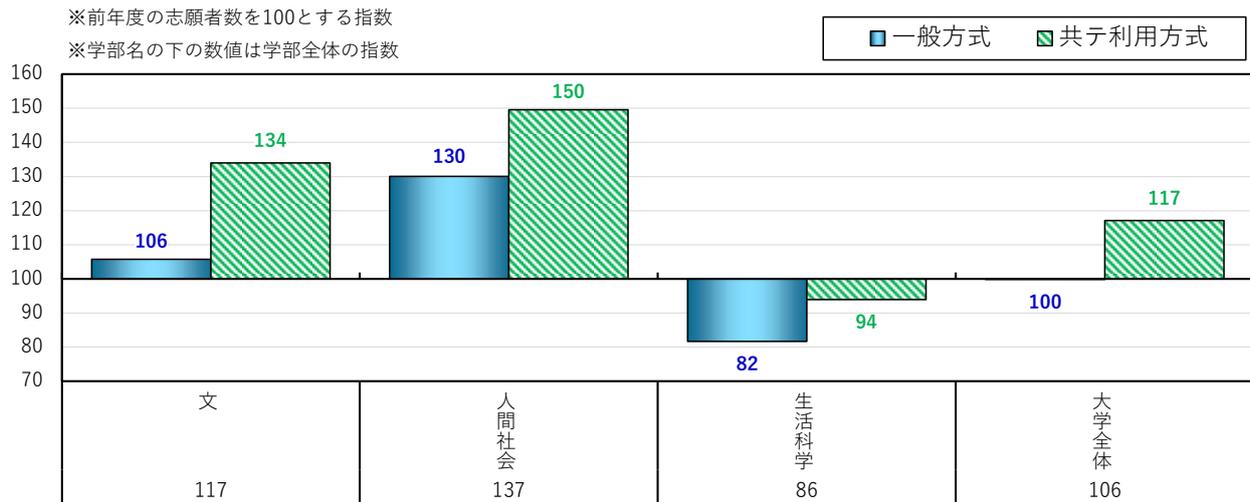


実践女子大：大学全体では4年ぶりに増加だが、4年前の半減以下 一般：-3人 共テ：+203人



主な入試変更点

選抜方法：全学部…<共テ・I期3科目型(英語外部試験利用方式)>を新規実施

利用方法：得点換算

対象試験：ケンブリッジ英検、英検、GTEC、IELTS、TEAP、TEAP CBT、TOEFL iBT、TOEIC LR&SW

※外を受験した場合は、高得点の方を外の得点として利用

※共テ・I期3科目型にも出願した場合は、外を受験必須

文(国文)…<共テ・III期>を新規実施

COMMENT

※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、3年連続大幅減少の反動は極小で200人(106)のやや増加で、2019年度比では半減以下。女子大を取り巻く厳しい環境も影響。学部別では、3学部中2学部が増加。人間社会(137)、文(117)はいずれも大幅増加。一方で、生活科学(86)は減少。方式別では、一般方式は、3年連続減少の反動はなく、わずか3人(100)の微減だが4年連続減少。2月上旬入試の<一般・I期>(98)は2年連続大幅減少に引き続きやや減少で3年連続減少。2月中旬入試の<一般・II期>(107)はやや増加で4年ぶりに増加。共テ利用方式は203人(117)の大幅増加で5年ぶりに増加だが、2018年度比では約60%減少。<共テ・I期>(129)は大幅増加だが、2018年度比では約60%減少。なお、新設の<共テ・I期3科目型(英語外部試験利用方式)>を除くと(86)の減少で、2018年度比では約70%減少。

<一般方式>

- 文(106)は、3年連続大幅減少の反動は極小でやや増加だが、2019年度比では半減以下。学科別では3学科中2学科が増加。(国文)(123)は大幅増加、(英文)(107)はやや増加。いずれも3年連続減少の反動。一方で、(美学美術史)(91)は3年連続減少。
- 人間社会(130)は、3年連続減少の反動で大幅増加だが、2019年度対比では約40%減少。方式別では、<一般・I期>(135)は4年連続減少の反動で大幅増加。<一般・II期>(114)は4年ぶりに増加。
- 生活科学(82)は、4年連続減少、しかも2021年度以降は3年連続大幅減少。学科・専攻別では7学科・専攻中6学科・専攻が減少。特に、(食生活科学/食物科学)(62)、(生活文化/生活心理)(64)、(生活文化/幼児保育)(64)、(食生活科学/健康栄養)(76)はいずれも大幅増加。一方で、(現代生活)(110)は2年連続大幅減少の反動で増加。しかし、2020年度対比では半減以下。

<共通テスト利用方式>

- 文(134)は、3年連続大幅減少の反動で大幅増加だが、2019年度対比では半減以下。なお、新規実施の<共テ・I期3科目型(英語外部試験利用方式)>を除くと(93)のやや減少だが、2019年度対比では約70%減少。学科別では、3学科全てが増加。(国文)(179)は激増だが3年連続大幅減少だった反動は小さく、2019年度対比では約64%減少。(英文)(132)は大幅増加だが4年連続減少の反動は小さく、2018年度対比では約60%減少。(美学美術史)(112)は増加だが、3年連続減少の反動は小さく、2019年度対比では半減以下。
- 人間社会(150)は、大幅増加。しかし、新規実施の<共テ・I期3科目型(英語外部試験利用方式)>を除くと前年度の大幅減少に引き続き(95)のやや減少。
- 生活科学(94)は、やや減少で5年連続減少。新規実施の<共テ・I期3科目型(英語外部試験利用方式)>を除くと(71)とさらに大幅減少。学科専攻別では、7学科・専攻中5学科・専攻が減少。特に、(生活文化/幼児保育)(38)が激減、(食生活科学/食物科学)(62)、(食生活科学/管理栄養士)(77)、(食生活科学/健康栄養)(77)が大幅減少。一方で、(現代生活)(169)は激増、新規実施の<共テ・I期3科目型(英語外部試験利用方式)>を除いても(120)の大幅増加。ただし、4年連続減少の反動は小さく、2018年度対比では新規実施の<共テ・I期3科目型(英語外部試験利用方式)>を含めても約40%近い減少。